

アフリカと感染症・風土病

長崎大学熱帯医学研究所 国際保健学分野 教授

山本 太郎

2010年、アフリカの17か国は独立50周年を迎えた。活況が伝えられている。そんな今、アフリカの来し方と感染症・風土病について考えてみることにしよう。

アフリカが長く「暗黒大陸」と呼ばれた理由の1つに風土病としての感染症の存在があった。アフリカの本格的植民地化が遅れた理由にこうした疾病の存在を挙げる専門家もいる(表1)。

例えば、アフリカ眠り病――。

アフリカ眠り病はツェツェバエが媒介する寄生性原虫トリパノソーマによって引き起こされる人獣共通感染症である。病状が進行すると昏睡状態になり、やがて死に至る。これが「眠り病」の由来となった。

初期のヨーロッパ人探検家たちは、探検の途上しばしば牛や馬が死亡することを報告していた。ヨーロッパ人たちの入植、植民地化が本格化するとこの病気が人間の間でも流行しはじめ、イギリス保護領だったウガンダでは1896年～1906年の約10年間に25万人がこの病気で死亡し、コンゴ盆地では50万人が亡くなった。

1901年5月、ガンビア川を行き来する蒸気船船長だった42歳のミスター・ケリーが、熱っぽさと身体のだるさを感じて医師ロバート・マイケル・フォードを受診したことに端を発する。症状からマラリアを疑ったフォードはキニーネによる治療を行なったが、原因はマラリアによるものでなかった。キニーネが効かないことと血液中にマラリア原虫が見つからないことがその理由だった。代わりに血液中に奇妙な虫を見つけたが、虫と病気の関係を調べる術はなかった。

同年12月、新設のリバプール熱帯医学校出身の若い寄生虫学者ジョセフ・エレベット・ダット

ソンがマラリア調査のためにガンビアを訪れた。彼は、虫がトリパノソーマであることはつきとめたが、それが病気と関係するか否かについて結論を下すことはできなかった。当時トリパノソーマがウシの消耗性疾患と関係していることは知られていたが、ヒトの病気と関係しているとの報告はなかったのである。

結局、ケリーの症状は改善せず、1903年1月1日に死亡した。ケリーは、「アフリカ眠り病に罹ったことが明らかな最初のヨーロッパ人」ということになった。この病気は、20世紀初頭の熱帯医学研究者の注目を集め、原因究明と感染経路の解明へ研究者を駆り立てた。

こうしてヨーロッパ人にとって「熱帯地域の疾病制御」は植民地化あるいは植民地経営上重要な統治施策となり、医療・医学体系として「帝国医療」または「植民地医学」と呼ばれる近代医学の1つの源流を形づくることとなった。

アフリカ眠り病は、やや沈静化しつつあるが、依然として毎年数万人の死者と1万人の新規患者を生んでいる。近年では、経済活動や紛争による感染した人びとの「移動」も新たなリスクとなっているのである。

表1 シエラレオーネ駐留英軍(1816-1837)の出身地別死亡率(人口1000対)¹⁾

	アフリカ人	イギリス人
間歇熱/持続熱	6.9	3.3
その他熱病	2.4	406.9
呼吸器疾患	6.3	4.9
肝疾患	1.1	6
消化器疾患	5.3	41.2
脳疾患	1.6	4.3
水腫	0.3	4.3
その他	2.6	7.1
合計	26.5	478

1) Philip Curtin, *Disease and Empire: The Health of European Troops in the Conquest of Africa*. Cambridge university Press, 1998.